



今回は3年生の道徳の授業の様子や生徒たちの学びについて紹介します。



「背番号15が歩んだ道—黒田博樹選手—」 D-22 よりよく生きる喜び

大学卒業後、広島カープに入団。その後MLBで7年間選手として活躍し、再び広島カープに戻ってきた黒田選手。生徒たちも黒田選手の生き方から、自分の生き方へ活かせる学びがありました。

〈たくさんの人に応援され、愛された黒田選手の生き方から学んだことは？〉

【生徒の考え】

自分は計画を立てても努力をしてないなと思った。周りで応援してくれている人たちの期待に応えられるよう頑張りたい

自分は負けたりしたら言い訳をしてしまうクセがある。これからは何かのせいにしてはいけないなと思った。

人間はふつう自慢したくなったり見下したりするけど、黒田さんはそういう心を持たずに、ファンのために努力していた。見習っていききたい。

黒田選手が弱い選手だったというのは驚いたが、弱くても自分ができることをしているのを知って感心した。これからは活かしたい。



「絆で掴んだ栄光」 C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実

1998年 長野オリンピックにて、スキージャンプ団体が悲願の金メダルを獲得。この栄光には陰で支えた25人のテストジャンパーたちがいました。ジャンパーたちの多くは惜しくもオリンピック出場を逃した実力者たち。金メダル獲得を目指す日本選手団と競技再開を託されたテストジャンパーたちの思いから、集団におけるさまざまな役割や、その重要性を学び、自分たちの部活動などに活かそうとしていました。



【生徒のまとめより】

自分は大会に出ないから関係ないではなく、みんなが一丸となって頑張っていく必要があると感じた。大会に出るチームメイトやクラスメイトの応援やサポートをしたい。

過程を大切に勝っても負けても悔いなく全力で頑張れたと堂々と言えるようにしたい。

最後まで粘り強く諦めずに試合をする。どうせダメだという気持ちを捨てて試合に挑みたい。

自分が活躍して引退したいという気持ちはあるけど、チームが勝つために自分だけでなくチームのみんなが自分の役割を理解して挑戦することが大切だと思った。

試合に出る選手だけでは何もできないと思った。裏方の人も目立っていないけれども選手以上の活躍をしていると分かった。

部活動やこれからの行事などにも今回の学びを活かしていきましょう。